



「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。(私が置かせていただいている環境に感謝を込めて)

日本は梅雨に入った6月でしょうか？パラオで季節と言えば雨季（5～10月）と乾季（11月～4月）になります。1年近く過ごしてきましたが、雨季と乾季に明確な違いは無いように感じています。現地の方に聞いても、最近でははっきりと分かれることは無いということです。気候変動は世界中どこでも起こっているのかもしれませんが。

さて、今回はパラオの学校の卒業式について書きたいと思います。パラオでは学年の始まりが7月で終わりが5月末です。卒業式が6月に行われます。国によっても学年のスタートが異なることは興味深いことです。

## ○パラオの卒業式

私の任地のベラウ・モデクゲイ・スクールは小規模校で卒業生の数は6名と少ないので、一般的なパラオの学校の卒業式とは異なるかもしれません。卒業式の次第は右に書いた通りの流れになっています。国歌斉唱や来賓あいさつ、卒業証書授与、在校生送辞、卒業生答辞など、日本の卒業式と似たところもあります。

日本との違いがいくつかありました。まず、卒業生が会場の正面に用意されたステージに座ること。卒業生6名に対して、在校生や家族、近所の方々、卒業生等100名を超える参加者がありました。卒業生の様子がよく見えます。そして表彰や奨学金の授与も行われ、会場全体で卒業生をお祝いしてあげます。私もバレーボールの指導に携わった関係でスポーツ表彰の授与をさせていただきました。卒業証書授与の後に家族との時間が設けられ、卒業生は家族の元に行って表彰状や奨学金、卒業証書を見せ、感謝を伝えます。家族みんなと抱き合いながら涙を流す姿には私も感極まりました。卒業生退場の後に卒業生は会場の後ろに立って、参加者が卒業生のところに行って卒業生のお祝いをします。写真にあるように花飾りやお菓子の首輪、紙幣で作られた冠などが掛けられています。パラオの卒業式は温かく、アットホームな雰囲気です。素敵な式でした。

国は違えど、卒業式は生徒の成長した姿や次のステージに羽ばたいていく姿を見ることができて良いものです。卒業式はその学校の教育の集大成だと改めて実感しました。

## ○卒業式次第

- ・卒業生入場
- ・国歌、校歌斉唱
- ・卒業生代表挨拶
- ・来賓あいさつ・卒業生紹介
- ・各種表彰
- ・奨学金授与
- ・卒業証書授与
- ・卒業生と家族の時間
- ・在校生送辞
- ・卒業生答辞
- ・卒業生退場
- ・卒業生お祝い

